

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

3 級

第2予想

平成 27 年度
第 142 回 日商簿記試験対策
ラストスパート模試
問題用紙

(午前 9 時開始 制限時間 2 時間)

(実際の試験では以下の文言が記載されています。)

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。



<http://www.net-school.co.jp/>
© Net-School

書籍のご購入はこちらへ



第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	普通預金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	前払金	立替金	未収金	土地
支払手形	買掛金	前受金	未払金	売上
受取利息	有価証券売却益	固定資産売却益	仕入	通信費
発送費	支払利息	手形売却損	有価証券売却損	固定資産売却損

1. 石川商店は、得意先富山商店より受け取った約束手形¥292,000を取引銀行で割り引き、利息相当額を差し引かれ、残額を当座預金とした。なお、利息相当額の計算においては年利率は4%、割引日数は60日、1年は365日で計算する。
2. 先月末に¥280,000の土地を¥340,000で群馬商店に売却していたが、本日、代金の全額が群馬商店より当店の普通預金口座に振り込まれた。
3. 札幌商店に商品¥550,000を売り渡し、代金のうち¥300,000は根室商店振出し、札幌商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額については掛けとした。なお、運送会社に運賃¥28,000を小切手を振り出して支払ったが、当店と札幌商店とで半額ずつ負担することになっており、札幌商店の負担分は売掛金勘定で処理する。
4. 得意先鹿児島商店に商品¥140,000(原価¥112,000)を売り上げ、代金のうち¥20,000は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は月末の受取りとした。なお、商品の発送費用(先方負担)¥3,000を運送会社に現金で立替払いし、掛代金とは区別して計上した。
5. 売買目的で取得していた秋田商事株式会社の株式10株(取得価格@¥27,200)を全株@¥34,000で売却し、売却代金は当座預金口座に振り込まれた。

第2問 (10点)

愛媛商店の平成27年12月の取引は次のとおりである。これらにもとづいて、それぞれの日付の取引が、答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、答案用紙の解答欄に○印を付しなさい。

- 7日 広島商店から商品¥160,000を仕入れ、代金のうち¥112,000については約束手形を振り出して支払い、残額は掛けとした。なお、引取運賃¥5,600については現金で支払った。
- 12日 岡山商店に商品¥214,000を売り渡し、代金のうち¥140,000については奈良商店振出し、岡山商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額については掛けとした。なお、当店負担の発送費¥8,800については小切手を振り出して支払った。
- 15日 12日に岡山商店に売り渡した商品の一部に汚損があったため、¥12,400の値引きを求められ、これを承諾し、掛代金から差し引くこととした。
- 17日 香川商店にかねて注文しておいた商品¥141,200を引き取り、代金については小切手を振り出して支払った。
- 22日 岡山商店から掛代金の一部¥36,000と注文を受けた商品の手付金¥20,400を同店振出しの小切手で受け取った。

書籍のご購入はこちらへ



第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、答案用紙の平成27年1月31日の合計試算表を作成しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は12月31日である。

(A) 平成26年12月31日の貸借対照表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現金	43,440	支払手形	64,000
当座預金	188,000	買掛金	123,600
受取手形	112,000	借入金	140,000
売掛金	200,000	前受金	8,000
売買目的有価証券	26,800	未払利息	1,560
商品	90,400	貸倒引当金	6,240
前払金	14,000	備品減価償却累計額	36,000
従業員立替金	2,000	資本金	400,000
前払保険料	3,360	当期純利益	20,600
備品	120,000		
	800,000		800,000

(B) 平成27年1月中の取引

- 1日 再振替仕訳を行う。
- 4日 買掛金¥12,000を小切手を振り出して支払った。
- 5日 商品¥72,000を仕入れ、代金のうち¥14,000は注文時に支払った手付金と相殺するとともに、¥36,000は小切手を振り出し、残額は約束手形を振り出して支払った。なお、商品の引取費用¥800は現金で支払った。
- 7日 商品¥92,000を売り上げ、手付金¥8,000を差し引き、残額は掛けとした。なお、当店負担の商品発送費用¥720は現金で支払った。
- 9日 商品¥57,200を仕入れ、代金のうち¥20,000は当店あての約束手形を裏書譲渡し、残額は掛けとした。
- 11日 商品¥74,000を売り上げ、代金のうち¥32,000は得意先振出しの約束手形で受け取り、残額は掛けとした。
- 14日 7日に売り上げた商品の一部に品違いがあったため、商品¥9,200の返品を受け、掛けの代金から差し引いた。
- 15日 商品¥56,000を仕入れ、代金のうち¥44,000は約束手形を振り出し、残額は掛けとした。
- 18日 売買目的で保有している株式50株 (簿価@¥240) を@¥268で売却し、代金は小切手で受け取った。
- 20日 商品¥86,000を売り上げ、代金のうち¥26,000は得意先振出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。
- 21日 売買目的で株式20株を@¥280で買い入れ、代金は買入手数料¥240とともに翌月支払うことにした。
- 24日 従業員への給料¥40,000について、所得税の源泉徴収額¥3,200と従業員への立替金¥2,000を控除した残額を、当座預金口座から支払った。
- 26日 借入金の利払いとして¥840が当座預金口座から引き落とされた。
- 28日 仕入先に商品¥32,000を注文し、手付金として代金の20%を小切手を振り出して支払った。
- 30日 家賃¥14,400が当座預金の口座から引き落とされた。なお、家賃のうち30%は店主個人の住居にかかわるものである。

書籍のご購入はこちらへ



第4問 (8点)

以下の仕入勘定および支払利息勘定の決算整理後の記入状況にもとづいて、答案用紙の損益勘定および資本金勘定を完成させなさい。なお、会計期間は1年、決算日は12月31日である。

仕		入	
1/6	買掛金	2,484,000	1/10 買掛金 12,000
12/31	繰越商品	164,000	12/31 繰越商品 183,200
支		払	
利息			
10/31	現金	12,800	
12/31	未払利息	1,600	

第5問 (32点)

次の(1) 残高試算表、(2) 決算までに判明した未処理事項および(3) 決算整理事項にもとづいて、答案用紙の()に適当な語句または金額を記入して、貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、当会計期間は平成27年1月1日から12月31日までの1年間である。

(1) 残高試算表

残高試算表
平成27年12月31日

借方	勘定科目	貸方
74,200	現金	
119,200	当座預金	
120,000	受取手形	
94,800	売掛金	
48,800	繰越商品	
220,000	貸付金	
600,000	建物	
240,000	備品	
720,000	土地	
	支払手形	69,600
	買掛金	86,640
	借入金	160,000
	仮受金	17,100
	貸倒引当金	960
	建物減価償却累計額	180,000
	備品減価償却累計額	96,000
	資本金	1,000,000
	売上	3,276,000
	受取利息	8,800
2,340,000	仕入	
180,000	給料	
62,900	水道光熱費	
52,000	保険料	
20,400	消耗品費	
2,800	支払利息	
4,895,100		4,895,100

(2) 決算までに判明した未処理事項

1. 決算直前に得意先栃木商店に販売した商品の一部が破損していたため、値引きを承諾した。この値引額 ¥10,800については、同店に対する売掛金と相殺することとした。
2. 当期9月30日に備品の一部を売却し、代金は仮受金で処理していたが、本日決算日につき正しい処理に修正する。この備品は、平成24年1月1日に ¥80,000 で購入したものであり、当期の減価償却費の計算は月割計算による。

(3) 決算整理事項

1. 期末商品棚卸高は ¥45,600 である。
2. 受取手形および売掛金の期末残高に対して 2% の貸倒れを見積もる。差額補充法により貸倒引当金を設定する。
3. 建物については耐用年数30年、残存価額は取得価額の10%、備品については耐用年数5年、残存価額ゼロとして、それぞれ定額法により減価償却費を計上する。
4. 消耗品の棚卸を行ったところ、¥4,080分が未使用であることが判明した。
5. 受取利息の前受額は ¥2,200 である。
6. 保険料は、全額建物に対する火災保険料で、毎年同額を9月1日に12か月分として支払っている。
7. 支払利息は借入金に対する利息であり、当期の7月31日(利払日)までの利息が計上されている。利払日後、決算日現在まで借入金の変動はなく、年利率3%により利息の未払高を月割計上する。

書籍のご購入はこちらへ

